

【優秀賞】愛媛県人権擁護委員連合会子ども人権委員会委員長賞
「性別を理由とする偏見や差別をなくす」 松前町立松前中学校 匿名

自分自身が自分の性別についてわからないときがあります。男だったり、女だったり、どちらでもない時と様々です。恋愛対象は男女のどちらでもありますが、女の方が多いです。なぜこんな風に自分の性が変わるのか本当によく分かりません。だから、自分のことでずっと悩んで、自分が嫌いで、自分で自分を傷つけることもあります。自分なんていなくなればいいのと思うこともあります。

自分は小学校五年生の前半の時の性自認は女でした。後半になるにつれて、女である自分が嫌でスカートなんて穿きたくないと思うようになりました。六年生になった時の始業式の朝、当時の先生に「標準服で来るように」と言われ、スカートを穿きました。鏡に映った自分は気持ち悪くて、泣いて、今すぐにでも脱ぎたかったのを覚えています。それでも、この姿で行かないといけないから今日はスカート姿でも耐えようと思って登校しました。学校に着いたら、みんなに「可愛いね」とたくさん言われましたがあまり嬉しくなく、そう言われることがむしろ嫌だと思っていました。みんなが悪気はなく言っているのは分かっています。その中で、自分の本当の気持ちを言ったら、みんなに気持ち悪がられて、友達じゃなくなるかもしれないと思い、とても大きな不安に襲われました。自分自身の性のことは友達に言えていません。

自分が通う中学校には、制服にスラックスがあります。自分はスラックスを選択し、穿いています。みんなは「かっこいいね」とたくさん言ってくれて、とても嬉しかったです。でも、学校生活を送っていくうちに「自分ってやっぱり女なんだ」と意識せざるを得ない場面はたくさんあります。今の学校にいる限りは仕方ないと理解しているつもりですが、辛くなる時もあります。自分は、担任の先生に理解してもらっているのが一番の救いです。自分の性別について初めて相談して、話を聞いてもらって、先生は自分のことを否定せず、受け止めてくれました。担任の先生のように支えてくれる人の存在が自分に大きな安心を与えてくれています。

最近よく LGBTQ について見聞きします。日本にはこのような人が十人に一人いるそうです。LGBTQ のことを調べていると、自分の学校のように制服でスラックスなどが導入され制服が選べるような学校が増えていることが分かりました。また、日本ではどんな性別の人でも使いやすいオールジェンダートイレが設置されているところがあります。

様々な場面で性についての理解が広がってきているので、自分は嬉しく感じます。ですが、スラックスが選択できるようにすることやオールジェンダートイレを利用できるようにするだけでは、全ての人がありのままの自分で生活できるようになるわけではありません。それから、性について理解していない人に向

かって責め立てるのはおかしいと思います。その人は、様々な性の在り方を知らないだけです。だから、自分は自分の立場から、性に対する正しい知識を優しく教えられるようになりたいです。

自分は、自分自身の性別が分かりません。でも、差別や偏見がなくなるのをただ見ている傍観者にはなりたくありません。偏見や差別をなくすためにはどうすればよいか、自分だけで考えるのはやはり難しいです。でも、学校の授業でLGBTQ について学習する時には、自分の考えを自分の立場で伝えられるようにして、身近な人たちから理解のある人を増やしていきます。誰もがお互いを理解して、性の違いがあって当たり前な社会をつくる一歩を踏み出したいです。